

黒曜石

黒曜石は火山から生まれた「天然のガラス」。

割っただけで鋭い刃物になるこの石は、マンモスやオオツノジカなど大型の動物を追って遊動生活をした旧石器時代から、生活に欠かせない道具の材料として使われてきました。縄文時代においても、黒曜石は大切な存在でした。

斧形石器

木を伐採・土を掘る
※写真の斧形石器は黒曜石ではありません

彫器

彫る

錐形石器

穴をあける
※写真の左端一点のみが黒曜石です



搔器

皮をなめす

削器

切る・削る

撮影 佐藤雅彦

尖頭器

ヤリの先につける

細石刃

狩る(替え刃)



黒曜石の産地

北海道の4大産地は、

- ①遠軽町白滝、②置戸町、
- ③上士幌町十勝三股、④赤井川村



黒曜石の色

黒だけじゃない!

産地によって、赤褐色や白斑が混じったもの、白色や透明に近いものや、南米産の黒曜石は緑色かかったものも。



木古内町で出土した長野県産の透明な黒曜石の矢じり
北海道立埋蔵文化財センター所蔵

技術力と言えば、出土している石器を見比べてみると、旧石器時代より縄文時代の方が、素人目にもちょっと下手な感じしない?古い時代のほうが上手って、なんか不思議だね。

旧石器人は道具と言えば石器だから石器づくりだけにひたすら集中できたけど、縄文人は土器や骨角器や土偶も作らないといけないし、石器作りに割く時間が足りなかったとか?

もう石器作るの飽きたとか? (笑)

縄文時代のなかでも、中期は特にざっくりしてる気がするし、後期になると今度はトンガリがすごいわね。謎のこだわり!並べて比べてみるとおもしろいね。(p2)

国宝で話題の白滝の黒曜石。出土したおよそ700万点の黒曜石のうち、99%はカケラで、石器の形になっているのはわずか1%だけなんだって。

原石が豊富なこの場所に石器を作りに来たんだから、完成品は持っていっちゃうよね。だから石器を作る時に出たたくさんのカケラが残されているってことなんだね。

カケラと言えば、「接合資料」って知ってる? (p3)

なにそれ、聞きなれない言葉!

出土した大量のカケラをジグゾーパズルのようにつづつつけて元の原石の形に戻したのなんだけど、

真ん中にできる空洞部分が、完成した石器の形になっているのよね。

ギャー!なんという作業!立体のジグゾーパズル。しかもピースが全部そろっているわけではないし、他の原石のカケラも混ぜられているし、全部黒い…絶対無理!そもそも、よく復元しようと思ったわよね…。

学芸員さんの指導のもと、地元の主婦の方々が中心となってコツコツ作業してきたんですって。20年間で延べ7万人の人が関わったらしいわ。

気が遠くなりそう…その方々こそが「国宝」だよ!

ほんとかね〜。

この接合資料のおかげで、石器づくりについていろいろわかったことも多いみたいね。当時の人々がどれくらい大ききの原石から何を作ったのか、どういう順番で割ったとか、どんな技法を使って作っていったのかとか。

失敗作もずいぶん落ちていたらしいよ。白滝は膨大な量の黒曜石があるから、ちょっと失敗したらすぐあきらめて新しい石でやり直したのかな。

なんて贅沢な使い方…

技術が高い人ほど、ちょっと失敗しても上手にリカバリーできるんだって。失敗作があるってことは、それを作った人の石器づくりの腕はまだまだだったのかもね…ウフフ

って、何千年も後に現代人に言われるの切ない! (笑)

今回いろいろ妄想がふくらんだわね。私たちも縄文人も、この黒いキラキラした石に不思議な魅力を感じて、特別な思いをもつもの似ているね。

白滝に行って、実際に石器づくりをやってみたいな〜。

いいね!上手に作ってお守りにしたい!

川で石拾いも楽しいよ! (笑)

(次回につづく)

★【縄文女子の妄想トーク】は、縄文をこよなく愛する縄文女子たちの個人の主観に基づく妄想トークがメインになっています。学術的に正しいかどうかは置いておいて、素人目線の「こうだったのかな」「こうだったらいいな」という妄想ワールドを、どうか生暖かい目で楽しんでいただけたら嬉しいです。